



## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年8月5日

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所 東  
 コード番号 2816 URL <http://www.daisho.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 松本 洋助  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 松本 俊一 (TEL) 092-611-9340  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年3月期第1四半期の業績 (2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	5,065	9.3	151	—	157	—	103	—
2020年3月期第1四半期	4,635	1.0	△65	—	△7	—	△13	—

  

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	10.67	—
2020年3月期第1四半期	△1.44	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	14,131	8,229	58.2
2020年3月期	14,209	8,188	57.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 8,229百万円 2020年3月期 8,188百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	9.00	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2021年3月期の業績予想 (2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,300	3.4	220	101.8	220	29.8	140	37.7	14.50
通期	21,800	3.3	750	35.1	750	21.2	470	16.2	48.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期1Q	9,868,800株	2020年3月期	9,868,800株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	216,088株	2020年3月期	216,088株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期1Q	9,652,712株	2020年3月期1Q	9,652,712株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により国内・外の経済が急激に減速に転じるなど、極めて厳しい状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、感染症拡大の影響による外出自粛の動きが広がり、巣ごもり消費の需要から生活必需品である食品の消費は拡大したものの、社会不安からの消費者の生活防衛意識や節約志向、食の安全への希求の高まりなど、多くの課題が山積する経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社は、2022年3月期までの中期経営計画に沿い、収益力の高い主力ロングセラー製品の拡販に注力する原点への回帰と、新時代における持続的成長を目指す事業活動を両輪とし、その実現に向けた重点施策に取り組み、業績の向上を目指してまいりました。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群においては、主力製品の販売に経営資源を集中させつつ一層の拡販に努めるなか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で家庭内での食事機会が拡大したこともあり、小売用製品が好調に推移しました。焼肉のたれ類では『秘伝 焼肉のたれ』、鍋スープでは『博多もつ鍋スープ』、『キムチ鍋スープ』といった主力製品が、大きく売上を伸ばしました。新製品では、肉料理にかけるだけでごちそう感をアップさせる調味ソースの『うにく用ソース』、『クアトロチーズソース』が売上を牽引いたしました。業務用製品では、新規開拓への取り組みを継続するなか、肉食市場の拡大の影響もあり、精肉向けのソースが伸ばしました。この結果、売上高は33億54百万円（前年同期比111.6%）となりました。

粉体調味料群においては、『味・塩こしょう』シリーズが好調に推移し、リニューアルした『もちもちねぎチヂミの素』が大きく売上を伸ばしました。この結果、売上高は11億34百万円（前年同期比107.6%）となりました。

その他調味料群においては、新製品『ぱくぱくキャベツ用セット』が売上を牽引し、即食製品にあらたに『コバラにうれしい 5つの味のスープはるさめ』を投入し、ラインアップを充実させました。この結果、売上高は5億76百万円（前年同期比100.0%）となりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間における売上高は、50億65百万円（前年同期比109.3%）となりました。利益につきましては、営業利益は1億51百万円（前年同期は65百万円の営業損失）、経常利益は1億57百万円（前年同期は7百万円の経常損失）、四半期純利益は1億3百万円（前年同期は13百万円の四半期純損失）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ78百万円減少し、141億31百万円となりました。固定資産が総資産の56.9%を占め、流動資産は総資産の43.1%を占めております。主な資産の変動は、「商品及び製品」が85百万円増加し、「リース資産」が68百万円、「建物及び構築物」が35百万円それぞれ減少したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べ1億19百万円減少し、59億2百万円となりました。流動負債が負債合計の66.0%を占め、固定負債は負債合計の34.0%を占めております。主な負債の変動は、「買掛金」が1億2百万円増加し、「賞与引当金」が1億89百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ40百万円増加し、82億29百万円となりました。純資産の変動は、剰余金の配当86百万円の支出と四半期純利益1億3百万円の計上により「利益剰余金」が16百万円、「その他有価証券評価差額金」が24百万円それぞれ増加したことによるものです。自己資本比率は58.2%となり、前事業年度末に比べ0.6ポイント上昇しました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

「2020年3月期 決算短信」（2020年5月11日に公表）において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### ①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰り延べる方法を採用しております。

#### ②税金費用の計算

当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,985	1,968
受取手形及び売掛金	2,770	2,814
商品及び製品	771	856
原材料	304	323
その他	223	147
貸倒引当金	△17	△18
流動資産合計	6,037	6,094
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,355	2,319
土地	2,677	2,677
リース資産(純額)	911	842
その他(純額)	941	876
有形固定資産合計	6,884	6,715
無形固定資産	129	150
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,162	1,175
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	1,157	1,170
固定資産合計	8,171	8,037
資産合計	14,209	14,131

(単位:百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,618	1,720
1年内返済予定の長期借入金	166	166
未払金	1,137	1,141
未払法人税等	107	76
賞与引当金	412	223
その他	496	564
流動負債合計	3,938	3,892
固定負債		
長期借入金	208	167
退職給付引当金	436	440
役員退職慰労引当金	612	614
その他	825	786
固定負債合計	2,083	2,009
負債合計	6,021	5,902
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	6,994	7,010
自己株式	△114	△114
株主資本合計	8,130	8,146
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	57	82
評価・換算差額等合計	57	82
純資産合計	8,188	8,229
負債純資産合計	14,209	14,131

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	4,635	5,065
売上原価	2,753	2,925
売上総利益	1,881	2,140
販売費及び一般管理費	1,947	1,988
営業利益又は営業損失(△)	△65	151
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1	1
不動産賃貸料	1	1
保険解約返戻金	16	—
受取補償金	40	—
その他	1	6
営業外収益合計	61	9
営業外費用		
支払利息	3	3
その他	0	—
営業外費用合計	3	3
経常利益又は経常損失(△)	△7	157
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△7	157
法人税、住民税及び事業税	6	54
法人税等合計	6	54
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13	103



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第1四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

該当事項はありません。